

担当者: 竹房 あつ子 (お茶大)

AREA	Scheduling and Resource Management
内容 状況	本エリアはGGF6では8つのWGでエリアミーティングを含め計13セッションが行われた。GGF6で1つのWGが終了し、2つのWGが提案され、GGF7ではこの2つのBoFが行われる予定。新設されたScheduling Architecture, Grid Economic Services Architecture, OGSA Resource Usage Serviceの会議参加者が多く、関心が比較的高かったようだが、その他の各WGのセッションの参加者はだいたい20名前後であった。
終了 Group	Scheduling Dictionary: ローカル/グリッドレベルのスケジューラで一般的に用いられる用語を定義した辞書を作ることを目的とし、ドラフトを完成させた
新設 Group	Scheduling Architecture, Grid Economic Services Architecture, OGSA Resource Usage Service, Usage RecordがWGとしてはじめての会議が行われた。 また、以下の2つのWGが提案された Grid Scheduling Ontology (GSO) : Scheduling Dictionaryの成果をもとに、Grid Scheduling Ontology WGとして発展させる。 Job Description Language: グリッド計算資源へのジョブサブミッションのための標準言語を定義することを目的して立ち上げられる。OGSAも視野に入れている
今後	エリアミーティングでは、各WGチェアからのGGF6の報告、新WGの提案がなされたのみで、エリアとして今後向かっていく方向などは示されなかった。
所感	

AREA名 : Scheduling and Resource Management (1)

グループ名		内容
WG	Scheduling Attributes	<p>スケジューリング属性に関するドキュメントがGGF editorsにサブMITTされている。引き続き既存スケジューリング・管理システムのサーベイ, GRAAPで作られたadvance reservationの検討などを行う。</p> <p>http://ds.e-technik.uni-dortmund.de/~yahya/ggf-sched/WG/sa-wg.html</p>
	Scheduling Dictionary	<p>Scheduling Dictionaryは終了し, 新たにGrid Scheduling Ontology (GSO)を立ち上げ, GGF7でGSOのBoFを行う予定。会議では, 現在のリストに関する議論とGSOに向けての議論。GSOではSemantic Grid RGとの密なコラボレートをする予定。</p> <p>http://www.fz-juelich.de/zam/RD/coop/ggf/sd-wg.html</p>
	Distributed Resource Management Application API (DRMAA)	<p>GGF6ではプレゼンテーションセッション×1, ワーキングセッション×2があり, 分散資源管理システムのAPIに関する詳細な議論がなされた。今年中にDRMAAドキュメントをまとめられる。GGF7でDRMAA 1.1 BoF開催予定。</p> <p>http://www-unix.mcs.anl.gov/~schopf/ggf-sched/WG/drmaa-wg.html</p>
	Grid Resource Allocation Agreement Protocol (GRAAP)	<p>マイルストーンの確認, State-of-the-Artドキュメントに関する議論(追加項目: CCS, PBS, GridEngine, Condor), Use Caseに関する議論(Webページに更新予定), Resource Description Languageに関する議論(これは当面は保留)がなされた。</p> <p>http://people.man.ac.uk/~zzcgujm/GGF/graap-wg.html</p>

AREA名 : Scheduling and Resource Management (2)

グループ名		内容
W G	Grid Economic Services Architecture (GESA)	前半はUse CaseのプレゼンテーションとUse Caseドキュメントの割り当て, 後半はChargeableグリッドサービスのインターフェイスとデータのリストアップとその議論がなされた. http://www.doc.ic.ac.uk/~sjn5/GGF/gesa-wg.html
	OGSA Resource Usage Service (RUS)	IBMからGSAX(Grid Service Accounting Extensions)の紹介とレコードの格納/取り出しインターフェイス, サービスデータエレメントに関する議論 http://www.doc.ic.ac.uk/~sjn5/GGF/rus-wg.html
	Usage Record (UR)	資源定義のreviewについて議論とusage recordのNatural Language(英語) DefinitionとNL Mappingのドキュメント担当者を割り当てを議論したが決まらず, メーリングリスト・テレコンで引き続き行われる. http://www.psc.edu/~lfm/Grid/UR-WG/
	Job Description Language (proposed)	グリッド計算資源へのジョブサブミッションのための標準言語を定義することを目的して立ち上げられる. OGSAも視野に入れている.
R G	Scheduling Architecture	オープングリッドサービスアーキテクチャの定義を目的として提案されたWG. GGF5でBoF, 今回初めてWG会議. 今後メーリングリストで研究対象を確認するとともに, 関連するUse Caseやグリッドスケジューラのrequirementを特定していく. http://ds.e-technik.uni-dortmund.de/~yahya/ggf-sched/WG/arch-rg.html

担当者： 西田 晃 (東大)

グループ	Scheduling Attributes WG
目的	異なったスケジューリングインスタンス間の通信を実現するための共通な属性を定義することを目的とする。
状況	GGF5 で設置. Chair は Dortmund 大の Yahyapour 氏. Working Document は完成し, GGF editor に提出されている. (“Attributes for Communication between Scheduling Instances”, http://ds.e-technik.uni-dortmund.de/~yahya/ggf-sched/WG/sched_attr/SchedWD.10.6.pdf)
進捗	議論のたたき台となる資料が必要であることから, まず PBS, LoadLeveler, NQS など, 既存のローカルジョブスケジューラに関するサーベイを行うことで合意し, 20分程度で解散. なお GRAAP WG でも advance reservation に限定した同様なサーベイが行われている.
今後	対象とするローカルスケジューラの選定をGGF7までに行い, GGF8, 9 までに最終的なドキュメントを完成させる.
参加者数	約10名.
所感	ドキュメントの必要性について参加者の賛否が分かれたが, より上位のスケジューラを設計する上で有用な内容であり, 推進していくべきであると思われる..

担当者: 西田 晃 (東大)

グループ	Distributed Resource Management Application API (DRMAA) WG
目的	PBS, LSF, Sun Grid Engine など, DRM (Distributed Resource Management) システム上でのジョブの投入, 監視, 制御, 及び終了状態の取得に関する C-API ライブラリを定め, DRMS を用いた分散アプリケーション開発を容易にするためのプログラミングモデルを決定する.
状況	従来の議論により, 対応言語や基本的な仕様 (セッション, プロトコルなど), 共有ライブラリの扱いなどが固まっており, 今回は GGF5 に引き続き, DRMAA specification 1.0 (GGF Document GFD-C.1) の完成を目指して, Working Draft Recommendations (GWD-R) をベースに API に関する仕様を確認した. 当日のチェアは Intel の Rajic 氏と Sun Microsystems の Tollefsrud 氏.
進捗	ML や telecon でも議論されている (詳細は http://www-unix.gridforum.org/mail_archive/sched-wg/ を参照されたい) が, 会場では in-process draft をもとに3セッションを設け, attribute precedence rules, DRMAA_PS_QUEUED_ON_HOLD state, drmaa specific info tunneling, interface names and globals, validity of job Ids across different sessions, error handling の各テーマについて詳細を検討した.
今後	参加者の一人 (名前は失念. ドイツの参加者?) から POSIX 仕様に準拠した API (PBS は POSIX 準拠) の提案があり, GGF editor にも提出されるようである. WG としてもこれを積極的に支持する方向で検討した.
参加者数	約10-20名
所感	具体的な仕様が固まってきつつあり, 引き続き今後の進展に期待したい.

担当者： 荒木 拓也 (NEC)

グループ	GRAAP (Grid Resource Allocation Agreement Protocol)
目的	グリッド環境において、(スーパスケジューラとローカルスケジューラとの間のリソース確保、予約のような)リソース管理を行うためのプロトコルを規定する。
状況	Charter、要求仕様に関する文書その他、既存のローカルスケジューラがもつ事前予約機能を調査した文書が作成されている。(ローカルスケジューラが持つ事前予約機能を利用するため。LSF, PBSなどが対象。)
進捗	文書、Milestone等のupdateの確認が行われた後、ユースケースに関するプレゼンが行われた。ここでは、グリッドアプリの分類(ex. high-throughput, data-intensive, on-demand等)や(プロセッサ数等の)リソース量を実行時に変更可能なアプリの分類、さらにreality grid project (www.realitygrid.org)でのユースケースの例が紹介された。
今後	GGF7でプロトコルに対する要求仕様を決定する。 リソース記述言語の規定についても議論されたが、こちらは延期し、プロトコルの決定に集中するとのこと。
参加者数	30名程度
所感	事前予約という技術に関して取り組んでいる点は興味深いですが、まだ技術的に詳細な議論を行うところまでは到達していないような印象を持った。

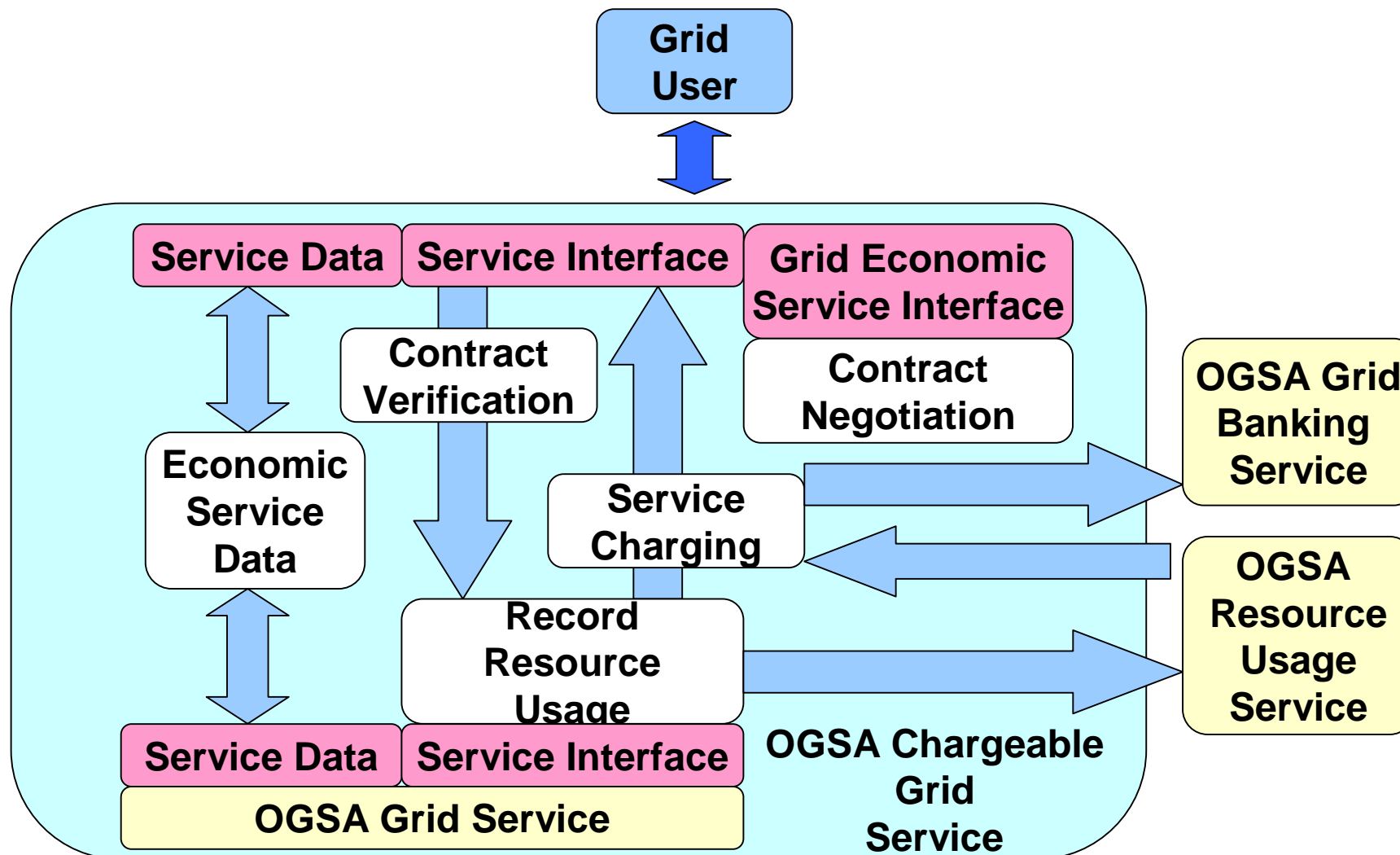
担当者： 伊藤 智 (産総研)

グループ	Grid Economic Service Architecture WG
目的	OGSAにおけるグリッドサービスへの charging として、様々な経済モデルに対応可能なプロトコルとサービスインターフェースを定義すること
状況	GGF5にてBOFを実施。その後 Charter がGGFにより承認。今回が初の会議。
進捗	(1)Chair 3人による use case (Application Service Provider, Computational Service Provider, Computational Reseller, Software Licensing Provider, Computational Broker) の説明と議論。各 use case のドキュメント担当者をアサイン。 (2)Chargeable グリッドサービスに対するインターフェースとデータのリストアップと議論。Grid Banking Service インターフェースに関する議論は時間切れで行われず。
今後	GGF7: Service Interface と Protocol を用いた実験レポート作成と仕様ドキュメント改訂 GGF8: Service Interface 定義と Protocol に関する仕様ドキュメントの改訂収束 GGF9: Protocol と Interface が様々な経済モデルをサポートする実証 GGF10: 仕様ドキュメントの完成。標準化に向けた勧告ドキュメントの作成検討開始
参加者数	(1)50名程度 (2)20名程度(少人数でテーブルを取り囲み議論)
所感	主体となって活動しているのはChairを含め10名程度で、あまり活発ではない。他のWG/RG(RUS, UR, Accounting)などと強く依存しあっており、進め方が難しい。

担当者：伊藤 智 (産総研)

グループ	Resource Usage Service WG
目的	OGSAにおけるグリッドサービスの課金に必要な情報を提供するためのインターフェースを定義する。リソースの利用に対する支払いそのものには関与しない。
状況	GGF5にてBOFを実施。その後 Charter がGGFにより承認。今回が初の会議。アイディアレベル(GWD-I)ではあるが、IBMからGSAX(Grid Service Accounting Extensions)に関するドキュメントが提出されている。実装も進めている模様。
進捗	(1)保存すべきリソース使用の情報、および取り出すべき情報のリストアップ。さらに、保存と取り出しを実際に誰(VO, host, user, administrator...)が行うかの議論 (2)隣室で開催のOGSA-WGに関係者が参加したため中止？
今後	GGF7: 更なる議論で仕様を修正し、ドキュメントの改訂継続 GGF8: 提案されたサービス仕様に対するドキュメントの完成、利用についてのレポート作成、標準化の勧告ドキュメント作成開始
参加者数	(1)40名程度 (2)なし
所感	十分な議論が進まないまま、中途半端に終わってしまったという感じ。 OGSAに乗っかるサービスの話のためか、IBMがChairの一人であるなど、強く関与。

RUS-WG で使われたArchitecture を示すスライド。



担当者: 竹房 あつ子 (お茶大)

グループ	Usage Record WG
目的	サイト間での資源共有で必要となるアカウントングとusageデータの交換を実現するため、一般的なusage recordを既存のものに基づいて定義する。どうやって情報を集めるか、どう使われるか、という議論はしない。
状況	GGF5でBoFを実施。その後CharterがGGFにより承認。今回は初の会議。
進捗	資源定義のreview (http://www.psc.edu/~lfm/Grid/UR-WG/res_definition.pdf) について議論(GGF6の2週間後にclose)。usage recordのNatural Language(英語) DefinitionとNL Mappingのドキュメント担当者を割り当てようとしたが決まらなかった。
今後	usage recordのNatural Language Definitionドキュメントを12/15までに作成。 NL Mappingドキュメントを2/1までに作成。 ドキュメント担当者と内容に関する議論をメーリングリストとテレコンで行う。
参加者数	20名程度
所感	ドキュメント担当者も決まらず、終わってしまった。

担当者： 西田 晃 (東大)

グループ	Grid Scheduling Architecture (proposed RG)
目的	グリッド上の資源 (ネットワーク, ソフトウェア, データ, ストレージ, プロセッサなど) を管理する異なったスケジューリングシステム間の協調を支援するため, OGSA ベースのスケジューリングアーキテクチャを定義する.
状況	Chair は Dortmund 大の Yahyapour 氏. 初回のドラフトが会場で配布された. スケジューリングサービスは計算資源を管理するとともに, データ管理, ネットワーク管理サービスを通じてそれぞれの資源を管理し, ジョブ管理, 課金管理サービスはそれを監視する. 情報サービスはこれらに関する情報を保持し, スケジューリングサービスからの問い合わせに対応する.
進捗	ドラフトをもとに, ポリシやオントロジ, 階層化, OGSA との関連など, 具体的な定義方法についていろいろな議論があった. スケジューラへの対応など, 具体的な利用事例を想定する必要がある, より広範な調査が今後の課題である.
今後	利用事例やアーキテクチャについての検討をもとに GGF7 までにドラフトの改訂を行う予定であり, それぞれについてタスクグループのメンバがボランティアとして募集された.
参加者数	約20-30名.
所感	今回は初回のドラフトが検討対象であり, 基本的な部分に関して興味深い議論が行われた. 今後の詳細化に期待したい.